

田んぼが布団のように真っ白に
——。姫路市の農事組合法人「夢
米」＝内海清人代表理事(60)＝が、
田に綿を敷き詰める独特の無農薬
農法「水稻布マルチ直播栽培」(通
称・お布団農法)に挑んでいる。

鳥取大の津野幸人・名誉教授(77)
＝宮崎市＝が開発した農法で、綿
が雑草の繁殖を抑えてくれるため
草取りの手間がはぶけるという。

【馬淵晶子】

初夏に出現 真っ白な田んぼ

種モミ挟んだ綿敷き詰め 雑草の繁殖抑える

姫路の農事組合 無農薬農法に挑戦

種モミを挟んだ綿の
シート「布マルチ」を
田に敷き詰め、稲を栽
培する。綿は収穫期ま
でに溶けてなくなるこ
う。

食の安全安心に消費
者の関心が高まる中
で、無農薬や有機農法
への注目は年々高まっ
ている。しかし、除草
剤がなければ雑草が大
量に生えてしまうた
め、高齢化が進む現代
の農家には負担が大き
い。田にアイガモを放
して雑草を取らせる
「アイガモ農法」も
あるが、除草効果が
安定しないのが難点
だ。

これらの課題を解決
しようと、津野名誉教

授が5年以上も研究を
重ね、約10年前に実用
化にこぎつけた。収穫
米のブランド化により
山間部の農業の不採算
性を解決し、渓谷の環
境保護につながる狙い
もあるという。現在は
全国約180件の農家
で実践されており、収
穫された米は「綿雪姫」
などのブランド名で販
売されている。

15日には、姫路市夢
前町高長で夢米が借り
ている田に布マルチが
敷き詰められた。駆け
付けた津野名誉教授の
指導の下、高坂晴男・
高長自治会長(68)らも
参加して汗を流した。
内海代表理事は「初夏
に出現する真っ白な田

んほと、播磨の清流で
育った高品質の無農薬
米で地域を盛り上げて
いきたい」と意気込ん

でいた。
津野名誉教授は「棚
田を守りたいという私
の思いを志してくれて
いるので応援したい」
と語り、今後もメール
を通じて夢米に成育状
況をアドバイスしてい
くという。



布マルチの敷設方法を指導する津野幸人・鳥取大名譽教授
(右から2人目)＝姫路市夢前町高長で